

第 11 回科学アカデミー会合概要

2018. 12. 12 日本学術会議事務局

日時：平成 30 年 10 月 8 日 12 時 30 分～14 時 00 分

STS フォーラム 2 日目に開催

場所：国立京都国際会館「Room104」

主催：日本学術会議

出席者：24 名（18 か国・1 地域のアカデミーの代表者）

【内訳】

ブルガリア（2 名）、ドミニカ、フィンランド（2 名）、フランス、ドイツ、インドネシア、ヨルダン、韓国、台湾、タイ、ラトビア、オランダ、ポーランド、セネガル（2 名）、スロバキア、南アフリカ、英国、米国、日本（3 名）

【共同議長】

山極 壽一 日本学術会議会長

マルシア・マクナット 米国科学アカデミー会長

【テーマ】

海洋生態系への脅威と海洋環境の保全

【概要】

冒頭、共同議長である日本学術会議の山極会長より開会の挨拶があり、日本学術会議の武内和彦国際業務担当副会長より、今回のテーマの選定経緯及び国立研究開発法人海洋研究開発機構特任参事の白山義久氏よりテーマについての説明があった。

その後、出席者各位によるプレゼンテーションが行われた。プレゼンテーションでは、各アカデミーにおけるテーマに対する科学的現状認識、取組等についての発言があった。

最後に、共同議長の米国科学アカデミーのマクナット会長から、「気候変動、海洋温暖化や都市化などに伴う海洋変化等についての発言が多くあった。」「海洋は現在多くのストレスを抱えていることから、それらを取り除く必要があること、また海洋資源については科学技術を利用した課題解決の可能性にも注視している。」「プラスチック問題については、政策と教育がとても重要である。」との総評がなされた。